

【写真—上は見事に復旧された美栄貯水池。下の左延々と舗装化された県道駅前中村医院前。中は近代施設を誇る下杉児童館。右は部落財産づくりをめざす三木田部落孫七沢町行造林地】

39年度に施行した おもな事業

昭和三十九年度にお
いては、いろいろと困
難な財政事情下にあ
りながら災害復旧事業
をはじめ新たな事業と
して児童館の建築、町
行造林制度など各種事
業が行なわれました。
その事業費総額は五千

八百万余円という巨額
に達しております。そ
の施行された事業のう
ち主なものを写真でご
紹介することにいたし
ます。

国民健康 保険事業

国民健康保険事業は、近
年給付内容がいちじるしく
拡大充実され、昭和四十年
度には新たな出産にともな
う育児手当の給付が実施さ
れているほか、四十一年一
月一日から家族である被保
険者の医療七割給付が実施
されます。
一方においては、医療技
術の向上、新薬の適用など
により、医療費が年々増高
しており、それにもなっ
て保険税負担も増えること
となりますが、当町におい
ては給付の状況と被保険者
であるみなさんの負担の実
態をよく検討のうえ、健全
な運用に最善の努力がはら
われております。
現在における被保険者は
八千六十九人、世帯数は千
六百七十八であり、これら
の人々の健康を守るために
年間三千九百六十六万九千
円の予算がたてられていま
す。
なお、昭和四十年年度予算

〔第5表〕 昭和39年度 国民健康保険会計決算

〈歳入〉

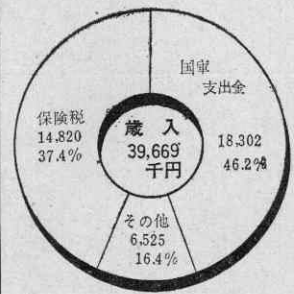
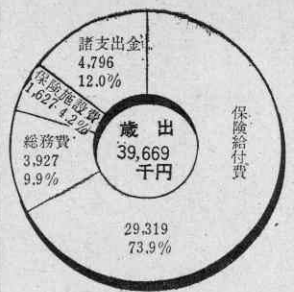
款別	決算額	比率
保険税	9,375千円	37.2%
国県支出金	15,198	60.4
諸収入	613	2.4
計	25,186	100.0

〈歳出〉

性質別	決算額	比率
人件費	3,617千円	12.3%
保険給付費	22,856	77.5
保険施設費	1,474	4.9
その他	1,558	5.3
計	29,505	100.0

歳入歳出差引不足金4,319千円は、翌年度歳入繰上充用金で補填。

〔5図〕 昭和40年度 国民健康保険予算



山林 261.6ヘクタール	建物 (庁舎、学校等) 6,868坪	町有財産
証券及び現金 6,336千円	土地 38,224坪	

納税組合で 自主納税を

わが町には、九月末日現在で別表第七表のとおり八十の納税貯蓄組合が結成され千三百七十八人の人達が加入しており、これらの組合員たちは毎年度の町税を納期限ごとに、または納期限前につけており町財政に大きな貢献をしています。また組合を結成してないところ、あるいは、これから組合をつくらうとして

41年用県民手帳 予約募集中

昭和四十一年秋田県民手帳の予約を受けております。購入希望の方は至急申込みください。
▽一冊百円。堅ろうでスマートなビニールシート装

ご芳志に感謝
社会福祉協議会
中村源治さん(木戸石)
母ミネさんの死亡による香典返しに代えて金五千円也。

小林市太郎さん(道城)
三男三郎さんの死亡による香典返しに代えて金五千円也。
吉田正一郎さん(川井)
父嘉市さんの死亡による香典返しに代えて金三千円也。

〔第7表〕 納税貯蓄組合設立の状況

部落名	組合数	加入世帯数	加入率
道城	3	38	47.5%
上下	9	126	77.3
駅前	4	63	64.2
川井	7	104	84.5
桃弥	3	68	40.7
八木	1	20	100.0
幡戸	1	8	80.0
八木	3	46	61.3
増美	8	124	70.4
李	4	75	78.1
羽新	1	25	92.5
福東	9	159	75.0
西芹	2	43	39.0
大内	3	61	70.1
三摩	1	23	76.6
三鎌	1	40	66.6
雪杉	4	53	82.8
山計	2	29	55.7
	1	16	94.1
	3	58	63.7
	1	16	44.4
	2	38	39.1
	3	79	84.4
	1	18	85.7
	3	48	94.1
計	80	1,378	65.9

〔第8表〕 町税の納税状況 (昭和39年度)

税目	調定額	収入済額	徴収率	1世帯当り	1人当り
町民税	6,373千円	6,044千円	94.8%	2,738円	500円
固定資産税	15,122	14,272	94.4	6,466	1,181
軽自動車税	1,127	1,057	93.8	478	87
たばこ消費税	4,278	4,278	100.0	1,938	354
電気ガス税	1,965	1,965	100.0	890	163
木材引取税	4,995	4,842	96.9	2,193	401
計	33,860	32,458	95.9	14,703	2,686
国民健康保険税	10,252	9,375	91.4	6,661	775
合計	44,112	41,833	94.8	21,364	3,461

県下初の精薄者施設

10・1 大野台愛生園開園

県内はじめての精薄者授産施設「大野台愛生園」は、金沢部落地内の大野台の一角に見事に完成、十月一日から入園者五十人、職員十三人をもって開園され、職業訓練のあと社会に復帰させる施設として大きな期待が寄せられている。

大野台駅から西寄り約三・生園は、広大な大野台に位置する。建設された愛生園の環境は、



【写真は大きな期待のもとに開園された大野台愛生園】

コンクリート平屋建て(本館)一部二階建て)千八百十平方メートルの収容施設は全館スチーム暖房。入園者は共同生活を行ない、その能力に合わせた職業技術と社会復帰をするための生活能力を身につけさせるもので職員は木村修司園長(前合川病院事務長)ほか職業指導員三人、生活指導員三人などの十三人、いずれも収容者と生活を共にして指導にあたっている。

日課は午前六時起床、午後九時就寝、職業指導は約三時間で食事を中心に生活指導や健康観察、娯楽などを取り入れ、第一に生活環境をつくりあげることにより注がれている。

職業指導は野菜づくりなどのための農業実習のほかニワトリ、ウサギ、豚など中小家畜の飼育や、ナメコシイタケの栽培、和洋裁、

調理、ワラ工品、木工加工などが主。このため三つの農場とニワトリ二百五十羽、種豚四頭、ウサギ二十羽、シイタケ、ナメコのほだ木三千三百本がとられている。

去る十月二十二日行なわれた開園式には小畑知事をはじめ県内各地からの福祉関係者が多数出席され、席上小畑知事は「愛生園は精薄者に職業訓練をほどこして社会へ復帰させることのできる県でも唯一つの施設であること。さらには大野

町の人口 10,833人 国勢調査の結果まとまる

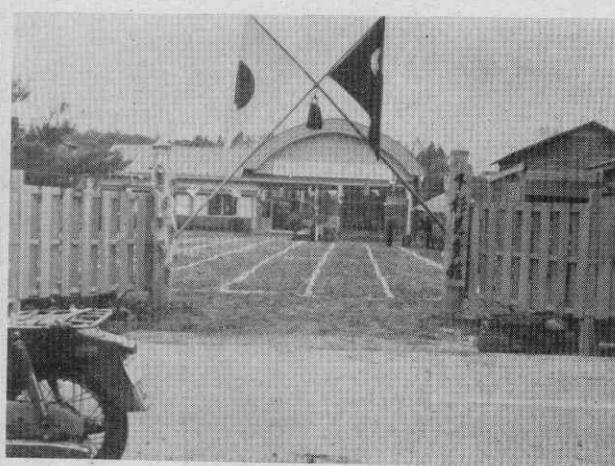
十月一日現在で町内で行なわれた国勢調査の結果、町内の人口は、七世帯、二千人二百七十七人、人口は、一万八千三百三十三人(その内男は五千二百人、女は五千六百三十三人)と

交通事故が絶えないのもこの部落のなやみである。水田六九、それに背後に大野台の開畑四四、は比較的耕作規模は大きい。が、やはり土地条件が悪く区画整理や農道整備等、問題は大野台の高度利用にあり、団地形成のまじりかむづかしく、また部落財産基盤が浅いのでなかなか取り組めそうにないが、木村金一郎会長以下六人の部落委員は全員三十代から四十代の若さと働き盛りで、他に見られない意欲をもっていることに期待がかけられよう。

＝部落めぐり＝ ② 児童館が自慢

下杉(しもすぎ)

南北一帯、県道に沿って一〇二世帯、人口五四一人の下杉部落は、町内で七番目の集落である。しかし、詳しくいうと駅前前、合川高校、大野台高等農業学園もわが



【写真は近代施設をほこるご自慢の下杉児童館】

部落の城下であると人々はいう。昨年十月、部落の中央に建設した児童館は、布地四五〇坪、近代的な施設五四坪は町内はもちろんだ、町外にも誇る堂々たるもので、ここの楽園として、さらには各種の集会所や青年婦人のセンターとして広く利用されている。

昨年夏、町内第一に完成した舗装道路がいまでは、米内沢、鷹巣、二ツ井、上小阿仁と四通八達しバス路線は、この部落を二十三往復も通ることになり、交通は至極便利になったが、その反面

わが町に三つめの駅「上杉駅」が誕生し地元では喜びをこめて、八月十九日付で合川・米内沢間鷹巣起点一・二、二五五分付近に気動車を設置することになった。去る二十一日国鉄はじめ、町関係者および地元民多数参加のもとに盛大な開業式を行ない、上杉駅誕生を祝した。

なほ、同駅の停車時は次のとおり、

- 上(鷹巣行き) 七、二五
- 下(比立内行き) 一四、五〇
- 八、二〇
- 一七、〇六

「上杉駅」開業成る 地域発展に期待

わが町に三つめの駅「上杉駅」が誕生し地元では喜びをこめて、八月十九日付で合川・米内沢間鷹巣起点一・二、二五五分付近に気動車を設置することになった。去る二十一日国鉄はじめ、町関係者および地元民多数参加のもとに盛大な開業式を行ない、上杉駅誕生を祝した。

なほ、同駅の停車時は次のとおり、

- 上(鷹巣行き) 七、二五
- 下(比立内行き) 一四、五〇
- 八、二〇
- 一七、〇六

東小 90周年を迎え 盛大な記念行事

ことし開校九十周年をむかえた東小(大塚謙治校長)および南小(本間四郎兵衛校長)では、菊まつり、十一月九日から十一日まで三日間にわたり、吹奏隊、パレード、児童作品展、記念式典、祝賀会、学芸会、バンド演奏会などが盛大に繰りひろげられた。

ことし開校九十周年をむかえた東小(大塚謙治校長)および南小(本間四郎兵衛校長)では、菊まつり、十一月九日から十一日まで三日間にわたり、吹奏隊、パレード、児童作品展、記念式典、祝賀会、学芸会、バンド演奏会などが盛大に繰りひろげられた。

ことし開校九十周年をむかえた東小(大塚謙治校長)および南小(本間四郎兵衛校長)では、菊まつり、十一月九日から十一日まで三日間にわたり、吹奏隊、パレード、児童作品展、記念式典、祝賀会、学芸会、バンド演奏会などが盛大に繰りひろげられた。

ことし開校九十周年をむかえた東小(大塚謙治校長)および南小(本間四郎兵衛校長)では、菊まつり、十一月九日から十一日まで三日間にわたり、吹奏隊、パレード、児童作品展、記念式典、祝賀会、学芸会、バンド演奏会などが盛大に繰りひろげられた。

ことし開校九十周年をむかえた東小(大塚謙治校長)および南小(本間四郎兵衛校長)では、菊まつり、十一月九日から十一日まで三日間にわたり、吹奏隊、パレード、児童作品展、記念式典、祝賀会、学芸会、バンド演奏会などが盛大に繰りひろげられた。

共同火葬場 業務を始める

合川町と森吉町、それに上小阿仁村の三カ町共同火葬場が森吉町米内沢黒沢七曲地(米内沢大杉より約二百メートル)に完成され、去る十月一日から業務が行なわれています。ご利用希望のときは、役場市民課または南支所へ申込みください。

合川町と森吉町、それに上小阿仁村の三カ町共同火葬場が森吉町米内沢黒沢七曲地(米内沢大杉より約二百メートル)に完成され、去る十月一日から業務が行なわれています。ご利用希望のときは、役場市民課または南支所へ申込みください。

合川町と森吉町、それに上小阿仁村の三カ町共同火葬場が森吉町米内沢黒沢七曲地(米内沢大杉より約二百メートル)に完成され、去る十月一日から業務が行なわれています。ご利用希望のときは、役場市民課または南支所へ申込みください。

校庭を 拡張整備

東小 南小 教育施設を充実

東小 南小 教育施設を充実

東小 南小 教育施設を充実

東小 南小 教育施設を充実

東小 南小 教育施設を充実

親豚にも 共済制度

合川町農業共済組合では新しく子豚取り用の親豚の共済制度をはじめることになった。

合川町農業共済組合では新しく子豚取り用の親豚の共済制度をはじめることになった。

合川町農業共済組合では新しく子豚取り用の親豚の共済制度をはじめることになった。

合川町農業共済組合では新しく子豚取り用の親豚の共済制度をはじめることになった。

合川町農業共済組合では新しく子豚取り用の親豚の共済制度をはじめることになった。

西小へぞうきん八十枚贈る

西根田寿クラブ(会長 金田吉治さん)では、このほど、きれいなぞうきん八十枚を西小へ贈りました。

西根田寿クラブ(会長 金田吉治さん)では、このほど、きれいなぞうきん八十枚を西小へ贈りました。

西根田寿クラブ(会長 金田吉治さん)では、このほど、きれいなぞうきん八十枚を西小へ贈りました。

交通事故追放 安全運転がカギ

八月十四日の合川橋からの自動車転落による運転手の即死、九月五日の川井部落の踏切りで列車とダンプカーが衝突、ダンプカーの運転手が即死、九月二十六日には上杉中横町の踏切りで列車にトレーラーが衝突、運転手が即死するというように、いままわしい事故が相次いで発生しました。

八月十四日の合川橋からの自動車転落による運転手の即死、九月五日の川井部落の踏切りで列車とダンプカーが衝突、ダンプカーの運転手が即死、九月二十六日には上杉中横町の踏切りで列車にトレーラーが衝突、運転手が即死するというように、いままわしい事故が相次いで発生しました。

八月十四日の合川橋からの自動車転落による運転手の即死、九月五日の川井部落の踏切りで列車とダンプカーが衝突、ダンプカーの運転手が即死、九月二十六日には上杉中横町の踏切りで列車にトレーラーが衝突、運転手が即死するというように、いままわしい事故が相次いで発生しました。

八月十四日の合川橋からの自動車転落による運転手の即死、九月五日の川井部落の踏切りで列車とダンプカーが衝突、ダンプカーの運転手が即死、九月二十六日には上杉中横町の踏切りで列車にトレーラーが衝突、運転手が即死するというように、いままわしい事故が相次いで発生しました。

八月十四日の合川橋からの自動車転落による運転手の即死、九月五日の川井部落の踏切りで列車とダンプカーが衝突、ダンプカーの運転手が即死、九月二十六日には上杉中横町の踏切りで列車にトレーラーが衝突、運転手が即死するというように、いままわしい事故が相次いで発生しました。

佐藤甚太郎氏 (固定資産評価審査委員) 旧下大野村収入役に就任

病氣療養中のところ九月十二日午後八時十分自宅において死去、六十一歳。氏は昭和二十四年七月日下大野村収入役に選任され戦後の新しい村づくりに活躍され、昭和三十年三月町村合併によって第一線を引いたが、固定資産評価審査委員に選ばれ、合併後の固定資産評価の適正化をはかるなど地方自治に著しく貢献された。なお葬儀は九月一六日自宅で営まれた。

病氣療養中のところ九月十二日午後八時十分自宅において死去、六十一歳。氏は昭和二十四年七月日下大野村収入役に選任され戦後の新しい村づくりに活躍され、昭和三十年三月町村合併によって第一線を引いたが、固定資産評価審査委員に選ばれ、合併後の固定資産評価の適正化をはかるなど地方自治に著しく貢献された。なお葬儀は九月一六日自宅で営まれた。

病氣療養中のところ九月十二日午後八時十分自宅において死去、六十一歳。氏は昭和二十四年七月日下大野村収入役に選任され戦後の新しい村づくりに活躍され、昭和三十年三月町村合併によって第一線を引いたが、固定資産評価審査委員に選ばれ、合併後の固定資産評価の適正化をはかるなど地方自治に著しく貢献された。なお葬儀は九月一六日自宅で営まれた。

病氣療養中のところ九月十二日午後八時十分自宅において死去、六十一歳。氏は昭和二十四年七月日下大野村収入役に選任され戦後の新しい村づくりに活躍され、昭和三十年三月町村合併によって第一線を引いたが、固定資産評価審査委員に選ばれ、合併後の固定資産評価の適正化をはかるなど地方自治に著しく貢献された。なお葬儀は九月一六日自宅で営まれた。

病氣療養中のところ九月十二日午後八時十分自宅において死去、六十一歳。氏は昭和二十四年七月日下大野村収入役に選任され戦後の新しい村づくりに活躍され、昭和三十年三月町村合併によって第一線を引いたが、固定資産評価審査委員に選ばれ、合併後の固定資産評価の適正化をはかるなど地方自治に著しく貢献された。なお葬儀は九月一六日自宅で営まれた。